

神戸だより

台湾交流支援の会 2020.02発行 Vol.27

〈神戸・南京町の「春節祭」〉 武藤 龍雄

2020年1月24日(金)から26日(日)まで、神戸・南京町で恒例の「春節祭」の催しがありました。

1987年から行われており、今年は32回目となるそうです。

本番に先立ち、1月19日(日)にはプレイベントとして、神戸華僑総会舞獅隊による福州龍舞パレードや獅子舞演舞が元町商店街や北野の異人館前広場であり、多くの観客を楽しませてくれました。

旧暦の元日に当たる1月25日(土)とその前後の日をいれた3日間がメインで、南京町広場のステージでは、獅子舞、太極拳、龍舞、変臉(へんれん、一瞬にして顔の面が変わる中国・四川地方の伝統芸能)、音楽や歌などが披露され、広場の周辺は大勢の観客で埋め尽くされました。

また、獅子舞が南京町や元町の商店街を練り歩く「獅子舞採青<祝儀とり>」や、募集に応募した一般の男女20人が京劇の衣装とメイクで三国志の英雄や楊貴妃に扮してパレードする「中国史人遊行」には観客も一緒に付いて回ったり熱心に写真を撮ったりして楽しんでいました。

南京町の飲食店も大そう賑わい、東洋占術や剪紙の実演販売コーナーもあり、春節祭の名物にもなっている200円の「ポチ袋くじ」はハズレなしということで多くの人が列を作って買い求めていました。



〈「しあわせはこべるように」(阪神淡路大震災復興をねがう合唱曲)〉 福本 節子

♪地震にも負けない

強い心をもって
亡くなった方々のぶんも
毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を
もとの姿にもどそう
支えあう心と明日への
希望を胸に
響きわたれぼくたちの歌
生まれ変わる神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌
しあわせ運べるように

♪地震にも負けない

強い絆をつくり
亡くなった方々のぶんも
毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を
もとの姿にもどそう
やさしい春の光のような
未来を夢み
響きわたれ ぼくたちの歌
生まれ変わる神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌
しあわせ運べるように
届けたい わたしたちの歌
しあわせ運べるように

しあわせ運べるように
1995年(阪神・淡路大震災)
詞曲：臼井 真



皆さんきっとこの歌を聞かれたことがおありだと思います。

25年前1月17日午前5時46分「ドドドッ」と地鳴りとともにこの歌の作者小学校教諭臼井さんの家の一階が潰れた。彼は学校の朝練習のため早起きし、2階に上がった直後だった。暗闇の中で何度も襲う余震。スリッパのまま数時間歩き親類宅に身をよせた。学校は避難所となった。家族や家を失って呆然する避難者を前に無力感におそわれた。

2週間後、親類宅でテレビに釘づけになった。がれきの山になった三宮「神戸がふるさとがきえてしまった」しかし、わきあがったのは絶望ではなく、「歌」だった。

神戸は死んだんやない。だから復活するんや。と鉛筆を走らせた。書き上げるのに10分もかからなかった。数日後、職員室で同僚たちに3年生の歌声のテープを聞かせた。曲が終わると拍手がわいた。無力だと思っていた音楽が人々の心に届いた。臼井さん視界がにじんだ。

それから、この歌のテープが校内放送で流されるようになった。

こうして、がれきに覆われた神戸の街で復興を願う合唱曲「しあわせ運べるように」はうまれた。

今年の1月17日 神戸市の全ての小学校では震災集会でこの歌が歌われた。